

平成 25 年度 新学術領域研究（研究領域提案型）審査結果の所見

研究領域名	多様性から明らかにする記憶ダイナミズムの共通原理
領域代表者	齊藤 実（公益財団法人東京都医学総合研究所・運動・感覚システム研究分野・参事研究員）
研究期間	平成 25 年度～平成 29 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、新学術領域研究「神経系の動作原理を明らかにするためのシステム分子行動学」（平成 20～24 年度）での成果を踏まえ、新たに記憶に焦点を当て、内的・外的要因による記憶情報・記憶機構の変化・遷移を「記憶ダイナミズム」と称し、多様なモデル動物を研究対象として用いることで記憶ダイナミズムの共通原理を明らかにしようとするものである。社会的、学術的に関心の高い分野であり、加齢や疾病も対象とすることから医学分野への波及効果も期待できる。</p> <p>研究組織については、実力・実績のある計画研究代表者から構成されており、既に連携や共同研究が活発であることに加え、新たに有機的な連携を進めるための様々な工夫もなされ、新学術領域研究として立ち上げるための準備状況は申し分ない。また、公募研究を重視し、若手研究者を積極的に採用しようとしている点も高く評価できる。</p> <p>一方で、霊長類やマウスの研究が不十分であるとの意見や異なるモデル動物研究から共通原理を導き出すには数理モデル解析が必要ではないかとの意見もあり、これらについては公募研究や連携研究によって積極的に対応することが望まれる。</p>